

月 日	見学地	内 容
第 1 日 第 2 日	秋 田 市	〔車窓よりの北陸路、東北路〕 面積458.8km ² 人口24.6万人。奈良時代にエゾ鎮圧のため秋田城が築かれ、1602年以降佐竹義宣が久保田城を築き、その後300余年佐竹氏20.5万石の城下町として繁栄した。今日、城跡は千秋公園となっている。市街は旭川で東西2地区にわかれ、東側は城があるので内町（旧武家町）といい、西側は外町（商工業地区）になっている。
	秋田の油田	秋田県は新潟県につぐ産油県で全国の20.9%を占めている。おもな油田に八橋油田（雄物川河口、全国第9位の油田）、申川油田（八郎潟西側、全国第3位の油田）があり、男鹿市の船川には精油所がある。
	八郎潟と 干拓地	むかしは完全な離れ島だった男鹿半島が北の米代川や南の雄物川から流出する土砂により陸続きとなり、その間にとり残されてできた潟湖（ラグーン）が八郎潟であり、一名琴の湖ともよばれた。かつてはワカサギ・シラウオ漁がさかんであった。 この八郎潟も昭和32年から300億円の工事費で干拓が始められ、潟全面積の78%の174.3km ² の新陸地が誕生し、昭和39年秋に干陸式と中央干拓地158.7km ² にできた大潟村の開村式が行なわれた。昭和42年度から入植がはじまり大型機械を使った大モデル農場に変わった。幾何学的模様の整然とした、赤い急傾斜の切妻屋根のモダンな住宅の密集する大潟村は従来の日本の農村というイメージと結びつかない集落である。
	秋 田 杉	米代川流域は日本三大美林の一つ秋田杉の産地であり、河口の能代市はその集散地、製材都市として有名。
	大 館 市	大館盆地のほぼ中央、秋田県北部の中心都市で城下町でもある。特産は秋田杉、秋田犬と比内鶏、そのほか曲物細工がある。
	登 荷 峠	十和田湖の南西岸に近く、眼下に御倉・中山半島、湖をかこむ山々のなだらかな線など山水の美がブナの大木の間からながめられる。十和田湖四大展望所の1つである。
	十 和 田 湖	十和田・八幡平国立公園の中心地。青森、秋田の県境にある二重式陥没カルデラ湖で、面積59km ² 、最深334mで日本第3位の深湖である。かつて魚が一匹もいなかったが、和井内貞

第 3 日	休 屋	行氏の努力により、ヒメマスの養殖がさかんである。
	子 の 口	中山半島のつけ根にあり、十和田湖観光の中心地。湖畔に、高村光太郎製作の乙女の像がある。
	奥入瀬溪流	奥入瀬川の落口で十和田湖観光の中心地 十和田湖の水は子の口から流出し、銚子滝から峡谷となり東流して太平洋に注ぐ。奥入瀬川の全長62kmのうち、子の口から焼山までの奇岩、原始的美林にとむ13.5kmの峡谷を奥入瀬溪流とよぶ。
	浅 虫 温 泉	東北地方で名高い温泉で、「東北の熱海」ともいわれている。青森潟にのぞんで目の前に、温ノ島・裸島・鷗島があり景色がよい。
	青 森 市	面積693.3km ² 、人口25.2万人。陸奥湾の中央に位置する県庁所在地。青森市は函館をへて北海道へわたる青函連絡船の基地として重要な都市で、そのことは長いホームや立派な駅の建物にあらわれている。 青森港は寛永2年（1625）の開港、津軽藩の御用港で、青森の名は湾頭の小山にある浜松が年中緑の色を変えないところから開港のとき名付けたといわれる。
第 4 日	青函連絡船	青森と函館を結ぶ113kmの国鉄連絡船で、所要時間3時間50分。本州と北海道を結ぶ最重要交通機関で、年間旅客470万人、貨物874万tを運んでいる。現在就航中の客船はすべて6,000t級の豪華船である。現在、津軽半島の三厩と渡島半島の福島との間に海底トンネルの工事が進められている。 〔車窓よりの道南地方〕大沼、駒ヶ岳、内浦湾など
	洞 爺 湖	水面標高83m、最深179.2m、面積70km ² のほぼ円形をしたカルデラ湖である。湖の中心にある中ノ島は火山の円頂丘であり緑が美しい。「トウ」は湖沼、「ヤ」は丘の意のアイヌ語で、丘のある湖の意味である。
	洞爺湖温泉	有珠岳(727m)と昭和新山(408m)をバックに、前には洞爺湖と羊蹄山（エゾ富士＝コニーデ1893m）を見る景気のよい温泉。

第 5 日	昭 和 新 山	特別天然記念物。昭和18年12月20日の有珠岳山麓一帯の地震とともに、土地がもちあがりはじめ翌19年5月には作物がはえたまま50mも高まり、その後爆発をくりかえして昭和20年9月には高さ150m、標高408mの、三角形をしたよう岩の塊の山ができた。(塔状火山＝ペロニーテ)、現在は谷も刻まれ麓には扇状地ができるなど地形の浸食過程をみることができる。
	オロフレ峠	白老町と壮瞥町との境にある峠で、登別と洞爺湖へ向う観光客でにぎわう。
	登別温泉と地獄谷	北海道第一の温泉で、温泉場として開けたのは安政4年(1857)である。温泉街はクスリサンベツ川(湯の流れる川の意)をはさんで軒を連ねている。ここの湯は硫黄泉をはじめあらゆる種類の効能をもつ温泉があり、この点では日本でも例をみない。地獄谷は温泉から400mはなれた湯元の大溪谷をいう。ここはいたるところ熱湯や熱気をふきだして、いわゆる地獄のものすごさを見せている。
	白 老	白老ポロトアイヌコタン。ポロト湖と自然林に囲まれた環境の中で自然のままのアイヌの生活を紹介しようという目的で、昭和40年5月に移住してきたアイヌ部落である。現在約130戸、700人ばかりが生活している。長い間の同化により内地化した風俗も多いが、アイヌ固有の生活様式がここには残っているので注意してみよう。
	いぶり 苫 小 牧	胆振支庁の中央部、勇払原野の西隅に位置し、わが国第1の製紙都市である。製紙工場としては王子製紙苫小牧工場、山陽国策パルプ勇払工場の2つがあり、市街面積の半分を占めている。この町から製紙を取除いたらあとは何も残らないといわれている。近年新苫小牧工場港の完成により、四大工業地帯に匹敵する臨海工業地帯をめざしている。
	王 子 製 紙	明治43年(1910年)に操業開始。工場敷地10.23km ² 、工場建坪1.65km ² 、従業員2,000人で、年産70万tの紙を生産している。中でも新聞用紙は全国の30%を占めている。
	札 幌 市	面積1118.0km ² 、人口104.5万人(全国8位)。北海道第一の政治・経済・文化・交通の一大中心都市である。市名はアイヌ語のサッポロベツ(乾いた大きな川)から来るものといわれる。明治2年(1869年)から札幌建設がはじまり、明治4年には400戸ほどの市街がつくられた。その後、明治8年には北海道大学の前身である、札幌農学校が開校されアメリカ人クラークをはじめすぐれた教師のもとに開拓精神にもえた学生が集まり、道路・建築な

ど整備され、今日みるような名実ともに近代文化都市に発展した。そのような点は、碁盤目状に区画された街路やアカシア並木（明治18年植林）などからもうかがえる。

おもな産業としては、ビール（サッポロビール）乳業（雪印乳業）などの大規模の工場があり、その他じゃがいも・玉ねぎの野菜類・リンゴ・桜桃・ぶどうなど果樹の生産でも有名である。

おもな見学地

大通逍遙地（大通公園）

市の中央を西2丁目から12丁目まで東西をつらぬく大通りで、華麗な花だんと大芝生150mのグリーンベルトがみられる。札幌の雪まつりの舞台でもある。

時計台

北海道大学の前身の旧札幌農学校の演武場でロシア式建築である。塔の上に明治11年(1878)に設置された時計があり、すばらしい鐘の音をひびかせている。

中島公園

面積58万㎡、東は豊平川に西南は創成川に沿っている中島にある。自然の風光を利用した人工的な水の公園。スポーツ施設もある。

北大植物園

北大農学部の付属で市の中央部に約14万㎡の地域を占め、この地方の原生林が完全に保存されているほか、世界各地から移植した約5000種の植物がある。

円山公園

原始林におおわれた円山の山麓にある樹木と芝生の公園で64万㎡の広さがある。

円山動物園

約210種 1,670点の動物・鳥がいる。園内には遊戯施設も完備している。

真駒内

オリンピック冬期大会に使用された、屋内スケート競技場、スピードスケート競技場がある。

羊が丘

もと農林省の経営で月寒種羊場として知られたところ。昭和24年6月より北海道農業試験場の畜産部になり、めん羊を中心に牛・馬・豚など多種の家畜が飼育されている。この牧場は面積約1.1km²の広さで、北海道らしさが味わえる。